

●環境教育・国際協力・環境教育（2） （1-I-15-3～1-I-16-3）

本セッションでは環境教育に関する5編の発表が行われた。それぞれが異なる視点・手法の発表で、興味深く聞かせていただいた。

1-I-15-3 は住民の都市河川に対する価値評価の構造を明らかにする研究である。若い世代の意識が低く、価値評価は水辺に関する経験や意識の影響を受けるという、ある意味で予想できる結論になったが、解析の妥当性を示すものである。水環境の評価の定量化は行政の立場から見ても非常にニーズが高く、今後の研究が期待される。

1-I-15-4 及び 1-I-16-2 はどちらも行政が市民と連携・協働して行う環境教育の取組についての考察であった。興味深かったのは、経験豊富な演者の発表がかなり否定的な結論であったのに対し、環境教育を手がけてまださほど時間のたっていない演者のほうが、環境教育の「あるべき姿」をはっきりと述べていたことである。これが環境教育の難しさであり、面白さなのかもしれない。

1-I-16-1 と 1-I-16-3 はどちらも環境改善の事例発表であった。

空芯菜を屋上緑化に使うというアイデアは、栽培される空芯菜を販売するところまでシステム化した点が評価できる。欲を言えば、空芯菜に肥料を与えて栽培するのではなく、植生浄化という機能も活用できないものだろうか。さらなる実用化や普及をめざすことを期待する。

1-I-16-3 は抽水植物（ハナカンナ）による公園内の池の水質改善により、生物多様性の回復にもつながることを示した。このような実験・調査を市民や学校と一緒に行うことによって、単なる水質浄化実験に終わらせず環境教育として発展させることが望まれる。

（千葉県環境研究センター 小倉 久子）